

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-16561

(P2004-16561A)

(43) 公開日 平成16年1月22日(2004.1.22)

(51) Int.Cl.⁷**A 4 7 B 13/08****A 4 7 B 96/18****A 4 7 B 96/20**

F I

A 4 7 B 13/08

A 4 7 B 96/18

A 4 7 B 96/18

A 4 7 B 96/20

A 4 7 B 96/20

テーマコード (参考)

3 B 0 5 3

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2002-177242 (P2002-177242)

(22) 出願日 平成14年6月18日 (2002. 6. 18)

(71) 出願人 000100698

アイカ工業株式会社

愛知県西春日井郡新川町西堀江 2 2 8 8 番
地

(72) 発明者 高島 重夫

愛知県西春日井郡新川町西堀江 2 2 8 8 番
地 アイカ工業株式会社内

Fターム(参考) 3B053 PA01 PA05 PB04 PC04

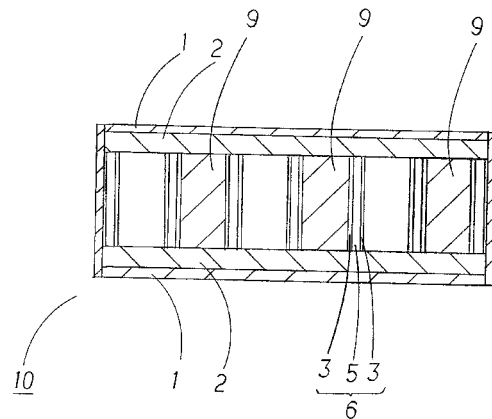
(54) 【発明の名称】 パネル、テーブル及びカウンター

(57) 【要約】

【課題】 軽量で反りの少ないパネルを得、また、金具を用いなくて屈曲した脚材や、カウンターを得、見栄えのよいものにする。

【解決手段】 表面に熱硬化性樹脂化粧板 1 が接着され裏面同志が対向する 2 枚の合板 2 の間に、基材 5 に熱硬化性樹脂積層板 3 が接着された栈材 6 を配置してパネル 1 0 を得る。また、屈曲部を有しつつ接続されたテーブル 1 2 であって、該屈曲部の所々に、該栈材同志で囲まれた空隙に熱硬化性樹脂 9 を注入する。更に、該パネル 1 0 の所々に裏面から表面にかけて V 溝を形成して屈曲させ、該屈曲部の所々の該栈材同志で囲まれた空隙に熱硬化性樹脂 9 を注入する。

【選択図】 図 4



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

表面に熱硬化性樹脂化粧板 1 が接着され裏面同志が対向する 2 枚の合板 2 の間に、基材 5 に熱硬化性樹脂積層板 3 が接着された栈材 6 が配置されたことを特徴とするパネル 10。

【請求項 2】

該パネル 10 が屈曲部を有しつつ連接されたテーブル 12 であって、該屈曲部の所々が、該栈材同志で囲まれた空隙に熱硬化性樹脂 9 が注入されて補強されていることを特徴とするテーブル 11。

【請求項 3】

該パネル 10 の所々に裏面から表面にかけて V 溝が形成されて屈曲されたカウンター 12 10 であって、該屈曲部の所々が、該栈材同志で囲まれた空隙に熱硬化性樹脂 9 が注入されて補強されていることを特徴とするカウンター。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本発明はパネル、テーブル及びカウンターに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、合板、MDF などの木質系基材、及び軽量化を目的として紙製ハニカムコア、ロールコアなどの中空芯材に熱硬化性樹脂化粧板を接着したパネルがあった。これらのパネル 20 を用いたものとして、例えば、洗面台やテーブルなどがあるが天板と側板、天板と背板、天板と脚材を L 字形に接合する際には、金具を用いていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、金具があるため引っ掛けることがあり、見栄えのするものではなかった。

【0004】

【課題を解決するための手段】

本発明はかかる状況に鑑み検討されたもので以下のことを特徴とする。すなわち、請求項 1 に記載の発明は、表面に熱硬化性樹脂化粧板 1 が接着され裏面同志が対向する 2 枚の合板 2 の間に、基材 5 に熱硬化性樹脂積層板 3 が接着された栈材 6 が配置されたことを特徴 30 とするパネル 10 である。

【0005】

また、請求項 2 に記載の発明は、該パネル 10 が屈曲部を有しつつ連接されたテーブル 12 であって、該屈曲部の所々が、該栈材同志で囲まれた空隙に熱硬化性樹脂 9 が注入されて補強されていることを特徴とするテーブル 11 である。

【0006】

更に、請求項 3 に記載の発明は、該パネル 10 の所々に裏面から表面にかけて V 溝が形成されて屈曲されたカウンター 12 であって、該屈曲部の所々が、該栈材同志で囲まれた空隙に熱硬化性樹脂 9 が注入されて補強されていることを特徴とするカウンター 12 である 40。

【0007】

【発明の実施形態】

以下、本発明を図面に基づき詳細に説明する。図 1 は本発明のパネルを示し、図 2 は図 1 中の線 A-A に沿う構成断面図である。図 2 に示すように本発明のパネル 10 は、熱硬化性樹脂化粧板 1 と、合板 2 と、栈材 6、木口材 7 などから構成されている。

【0008】

合板 2 の表面には熱硬化性樹脂化粧板 1 としてメラミン樹脂化粧板が接着され、栈材 6 には、段ボールの表裏にフェノール樹脂積層板が接着されたものが用いられている。実施例では軽量化を図るため基材に段ボールが用いられているが、これ以外にも、ロールコア、紙製ハニカムコア、アルミニウムハニカムコア、合板などを用いてもよい。 50

【0009】

栈材6は補強を目的に合板2の裏面側に配置されている。栈材6と平行する側面は栈材6を開口部を残して配置して、開口部を熱硬化性樹脂で補強する、側面には木口材7を接着するなど表面の柄、意匠に応じて適宜選択すればよい。樹脂で補強する際にはエポキシ樹脂が好適で、エポキシ樹脂は見栄えをよくするため着色してもよい。

【0010】

図3は、本発明のパネルをコの字形に屈曲させて連結し、連結部の所々の栈材6同志で囲まれた空隙には熱硬化性樹脂9としてウレタン樹脂が注入されたテーブル11の透視斜視図であり、図4は図3中のB-B線に沿う断面図である。図に示すように、連結部が補強され、強度は勿論のこと、歪みや破損を防止するものとなっている。本発明ではウレタン樹脂を用いているが、常温で硬化するものであれば特に制約はなく、例えば、エポキシ樹脂でもよい。

10

【0011】

図5は他の実施形態を示し、本発明のパネル10の裏面にV溝を形成し、L字形に屈曲させたカウンター12の透視斜視図である。図3と同様に屈曲部の所々の栈材6同志で囲まれた空隙には熱硬化性樹脂9としてウレタン樹脂が注入されて補強されている。

【0012】

【発明の効果】

本発明のパネルは表裏対象の構成であるから反ることがなく、内部の所々に空隙があるから軽く、取り扱いやすい。

20

また、本発明のパネルを屈曲、或いは連結させて屈曲部や連結部に熱硬化性樹脂を注入して補強することにより金具が目立たず見栄えがよい。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のパネルの斜視図。

【図2】図1中の線A-Aに沿う断面図。

【図3】テーブルの透視斜視図。

【図4】図3中の線B-Bに沿う断面図。

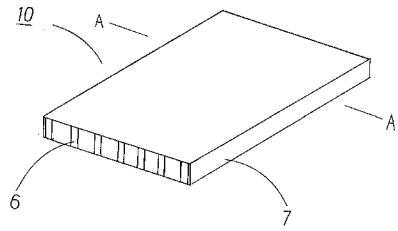
【図5】カウンターの透視斜視図。

【符号の説明】

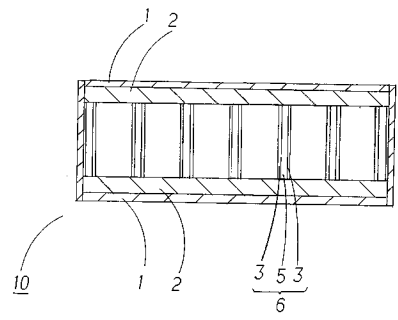
- 1 熱硬化性樹脂化粧板
- 2 合板
- 3 熱硬化性樹脂積層板
- 5 基材
- 6 栈材
- 7 木口材
- 9 熱硬化性樹脂
- 10 パネル
- 11 テーブル
- 12 カウンター

30

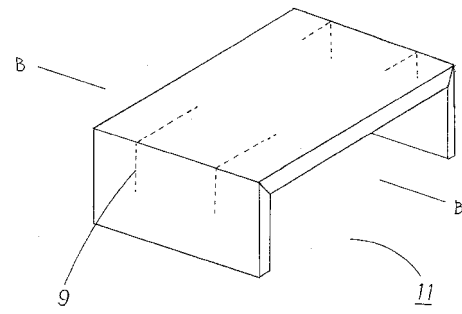
【図 1】



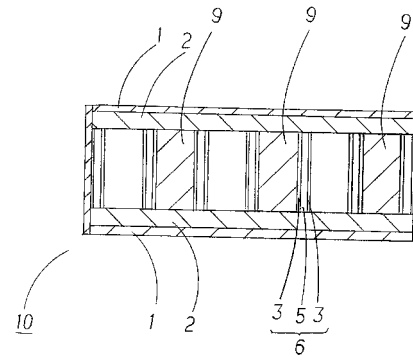
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

